

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 28 年度 第 1 回枚方市環境審議会
開 催 日 時	平成 28 年 9 月 1 日（月） 10 時 00 分から 12 時 00 分まで
開 催 場 所	市役所別館 4 階 特別会議室
出 席 者	委 員：石川委員、今掘委員、岩城委員、上原委員、岡崎委員、岡村委員、 落合委員、片瀬委員、小坂委員、田中委員、永井委員、廣寄委員、 丸井委員、溝口委員、三輪委員、安田委員
欠 席 者	姜委員、小杉委員、高瀬委員、花田委員、益田委員、三田村委員
案 件 名	【案件 1】会長・副会長の選出について 【報告案件 1】第 2 次枚方市環境基本計画について 【報告案件 2】枚方市環境マネジメントシステム（H-EMS）について 【報告案件 3】平成 27 年度の環境の状況について
提出された資料等の 名 称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料 1 第 2 次枚方市環境基本計画について ・ 資料 2 第 2 次枚方市環境基本計画事業計画の平成 27 年度の主な取 り組み実績と今後の方向性について ・ 資料 3 第 2 次枚方市環境基本計画平成 28 年度事業計画 ・ 資料 4 枚方市環境マネジメントシステム（H-EMS）の取り組みにつ いて ・ 資料 5 平成 28 年版環境データ集 ・ 参考資料 1 枚方市環境審議会委員名簿 ・ 参考資料 2 枚方市環境基本条例（抜粋）及び枚方市環境審議会規則 ・ 参考資料 3 枚方市環境審議会傍聴要領 ・ 参考資料 4 第 2 次枚方市環境基本計画（概要版）
決 定 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の互選により、会長に三輪委員、副会長に石川委員を選出した。 ・ 第 2 次枚方市環境基本計画の環境指標の見直しについて報告した。 ・ 第 2 次枚方市環境基本計画及び枚方市環境マネジメントシステム（H-EMS） の平成27年度の実績と平成28年度の目標について報告した。 ・ 平成27年度の枚方市内の環境調査結果について報告した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0
所管部署（事務局）	環境部 環境保全課

審 議 内 容

総括

【案件 1】会長・副会長の選出

- 会長に三輪委員、副会長に石川委員を選出した。

【報告案件 1】第 2 次枚方市環境基本計画について

- 第 2 次枚方市環境基本計画の環境指標の見直し内容、事業計画の平成 27 年度の実績と平成 28 年度の目標について、資料 1、2、3 を使って報告した。

【報告案件 2】枚方市環境マネジメントシステム（H-EMS）について

- 枚方市環境マネジメントシステム（H-EMS）の平成 27 年度の実績と平成 28 年度の目標について、資料 4 を使って報告した。

【報告案件 3】平成 27 年度の環境の状況について

- 平成 27 年度の枚方市内の各環境調査結果について、資料 5 を使って報告した。

質疑応答

【案件 1】会長・副会長の選出について

委 員：三輪委員と石川委員を会長と副会長に推薦させていただきたい。前任期において、会長、副会長として審議会を取りまとめていただいた実績があるため、適任である。

事務局：ただいまの推薦に異議等はあるか。ないようなので、会長に三輪委員、副会長に石川委員にご就任いただく。よろしく願います。

【報告案件 1】第 2 次枚方市環境基本計画について

委 員：学校に関する指標が多いが、市内に何校あるのか。

事務局：学校園の数は平成 28 年 4 月時点で 71 となっている。

委 員：資料 3 の 3 ページに環境保全の取り組み件数 335 件とあるが、全ての学校園が取り組んでいるのか、それとも数校の学校園の取り組み件数が多いのかどちらか。

事務局：S-EMS の取り組みとして、全ての学校園に 4 以上の取り組みをしていただいている。

委 員：最近、地震や異常気象による水害が多くなっている。特に異常気象による水害については、地球温暖化が原因の一つと考えられているので、環境基本計画の環境教育の中で防災教育の視点も含めていくよう検討いただきたい。

事務局：今後、検討させていただく。

委 員：国の地球温暖化計画では 2030 年と 2050 年における温室効果ガスの削減目標を掲げており、目標達成に向けて重要になってくるのは小学生、中学生、高校生達への環境教育だと考えている。市長部局と教育委員会がどのように連携しているのか教えていただきたい。

事務局：学校における環境教育・環境学習への推進への取り組みとして学校版環境マネジメントシステムを運用しているが、全ての面で市長部局と教育委員会が連携を取れているかといわれれば難しいところもある。今後、より連携できるよう検討していく。

委員：学校教育にも膨大な内容があるため困難かもしれないが、環境教育にもっと力を入れて欲しいと考えている。今後、市長部局から教育委員会に対し、積極的な協力を求めていくことが重要であるため、ぜひご検討いただきたい。

委員：先ほども防災教育について意見があったが、枚方市は淀川に接しているほか、複数の河川が流れているので、河川に関するものを一つのテーマとして取り上げるよう検討いただきたい。今後、水害等の防災に関する教育をするという話があれば、協力させていただきたいと考えているのでよろしく願います。

事務局：よろしく願います。

委員：枚方市には淀川や複数の河川が流れ、恵まれた自然があるほか、淀川資料館といった立派な施設もあるため、社会見学等ができるよう検討いただきたい。

事務局：検討させていただく。

委員：資料1にも記載されているESDという言葉には、環境教育や防災教育といった様々な教育に関する事項が包括されている。他自治体において、ESDに関する取り組みを行っている自治体が多いので、枚方市においてもESDの取り組みが見える表現にするよう検討いただきたい。

事務局：検討させていただく。

会長：先ほどから、環境教育や防災教育などに関してご意見があるが、これらの意見を反映させるには、環境部局から教育委員会へ積極的に協力を求めていく必要があると考えている。議事録に残すだけでなく、教育委員会へ働きかけをしていただけるよう検討いただきたい。

委員：環境基本計画の中で自然とのふれあいについて記載されているが、堺市や岸和田氏は生物多様性地域戦略を策定されており、枚方市でも策定に向けた取り組みをご検討いただきたい。

事務局：今後、国や大阪府の動向を注視しながら、検討したい。

委員：枚方市は中核市でありながら里山や農地が残っており、これらを保全していくことが重要であると考えているが、後継者がいないことや所有者の考えもあるので様々な問題がある。市として里山や農地を保全するため、どのような施策を実施しているのか教えていただきたい。

事務局：環境基本計画の中でも、農を守る施策として様々な取り組みを実施しているが、様々な問題があるため今すぐ解決というのは難しいと考えている。小さなことではあるが、森林ボランティア育成や新規就農者への支援等を行うことで、少しずつ里山や農地の保全へ向けて進めていきたい。

委員：環境部局だけでなく里山部局や農業部局等と連携して、保全に向けて検討をいただきたい。

会長：このまま放置すると里山や農地がなくなってしまうおそれがある。これらの保全に向けては抜本的な改革が必要になり、様々な諸制度等、問題があると予想できるが、検討いただきたい。

委員：環境というものを数値で評価することは難しいと実感している。市では環境イベントへの参加人数や回数で評価しているが、どのような考えからか。

事務局：国でもCOOL CHOICEといった国民運動を推進し、普及啓発に力を入れている経緯があるため、本市においても普及啓発を実施するうえで、環境イベントの参加人数や回数というものが一定、数値で評価できると考えている。

会長：環境というものを数値で評価することは難しいが、昔と比べて、市民一人ひとりの環境に対する意識は向上していると実感しているので、国や市で実施している普及啓発は、一定、効果があったと考えている。今後も普及啓発は重要であるので推進していただきたい。

委員：大阪市等では環境に配慮した建築物に対し、表彰を行うような制度を導入しているが、事業者が開発事業等を実施する際に、環境に配慮することを推進するような仕組み作りを検討いただきたい。

事務局：本市では枚方市環境影響評価条例があり、一定規模以上の開発事業に対しては、事業者が自ら環境に配慮したものを導入していただけるような制度になっていると考えている。

委員：条例の対象とならない小規模の開発事業についても、環境に配慮したものが導入されるような仕組みづくりを検討していただきたい

事務局：検討させていただく。

委員：緑と水というのは枚方市の魅力であり、特に船橋川、穂谷川、天野川といった河川は市民の生活、顔が見えてくると考えている。これらの河川の状況を調査し、市民に現状を伝えるといったことも検討いただきたい。

事務局：船橋川、穂谷川、天野川といった河川は工場指導等の成果もあり、昔と比べるとかなり綺麗になってきた。今後、環境教育の場や地域の清掃活動等を通して伝えていきたい。

【案件2】枚方市環境マネジメントシステム（H-EMS）について

会長：平成29年度に温室効果ガスの排出量を6%削減とあるが、どのような根拠から目標を立てたのか。

事務局：省エネ法では、中長期的に年平均1%以上のエネルギー消費原単位を削減することが求められている。本市においては、この省エネ法に倣い、基準年である平成23年度から年1%ずつ削減する形で目標を設定した。

会長：今後も省エネ法に倣って目標を設定するのか。

事務局：基本的にはそのとおりだが、枚方市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）は平成29年までの計画であるので、計画策定の際に検討したい。

【案件3】平成27年度の環境の状況について

会長：10ページで光化学オキシダントの年間の変動を示しているが、これは枚方特有のものなのか。

事務局：枚方市特有のものではなく、大阪府下の各地区において同様の傾向が出ている。

委員：環境データ集で枚方市の大気環境等について詳細に調べていただいているが、市民が見たときに内容が専門的過ぎて、理解できないのではないかと。参考資料4のような概要版を作成して、わかりやすいものにしていただければ、市民も興味を持って見ることができるとは思いませんか。

事務局：環境データ集は法律に基づき測定しているもので、どうしても難しい部分は出てくる。今後、わかりやすいものを提供できるよう、検討したい。

委員：25ページの継続監視調査で、テトラクロロエチレンやヒ素が環境基準値を超過して検出されているが、周知はしているのか。

事務局：検出された物質の種類によって大きさは変わるが、発見された井戸から半径250メートル圏内の住民に対し周知を行っている。

会長：水質汚濁の指標としてBODを使用しているが、水量の影響等も考慮すべきでないか。また、BODだけで本当に川の健康度というものが測れるのか。

事務局：水量によってBODは変化はするものであり、冬の水量の少ない時期はBODが高い数値が出る傾向がある。ただ、自然環境調査等では、天野川できれいな水に生息する鮎が確認されている。

会長：近年では、自然環境調査を行っているのか。

事務局：自然環境調査は、平成2年から概ね5年毎に全域調査と補完調査を実施しており、来年度が補完調査の時期となる。川がきれいになったことと関連付けて川魚の生息を紹介することで、市民が興味を持つような資料の作成を検討している。

会長：本日は、環境教育や自然保護等、様々な分野について活発な議論があった。事務局は本日の内容を踏まえ、環境行政を推進していただくよう、よろしく願います。それでは、以上で本日の会議を終了する。

以上